

山下和仁 追悼コンサート

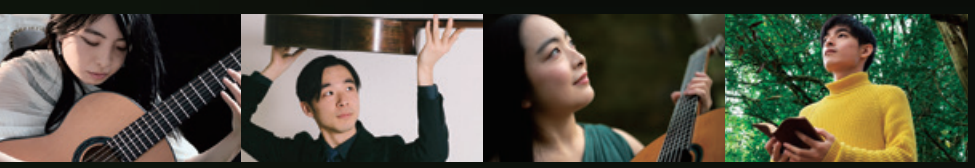
弱冠16歳にして脚光を浴び、世界を驚嘆させ続けたギタリスト

世界を代表するギタリストの一人であり
2026年1月、64歳で逝去した偉才

©田井夙虫

- 公演時、追悼映像を上映（予定、最大10分程度）
- ホワイエで楽器の一部、自筆譜、日記等の展示（予定）
- 公演にあわせ、山下和仁の著書を刊行（予定）

プログラム
リムスキー=コルサコフ（山下和仁編曲）：交響組曲《シェエラザード》より
カステルヌオーヴォ=テデスコ：《プラテーロとわたし》より
藤家溪子による本公演のための委嘱新作 ほか ギターソロ



出演
山下紅弓（ギター） 山下光鶴（ギター）
山下愛陽（ギター） 山下波父（朗読）

2027 3/25（木）
TOPPANホール
東京メトロ「江戸川橋」駅より徒歩8分（電話03-5840-2200）
19:00開演（18:30開場）

全席指定 ￥5,500（税込） 2026年11月14日（土）午前10時 発売

プレイガイド
●イープラス ●チケットぴあ
●TOPPANホールチケットセンター 03-5840-2222（土日祝休） www.toppanhall.com

※曲目は予告なく変更となる場合がございます ※未就学児はご入場いただけません

山下和仁公式サイト 追悼公演特設ページ

主催：オフィス山根 協賛：山下和仁事務所 問合せ：オフィス山根 contact@officeyamane.net

山下 和仁 ―その偉業を振り返り、未来へとつなぐ


©田井夙虫

「天才」の肩書きのままに特異な人生を進むこともできたろう…。
弱冠16歳にして脚光を浴び世界を驚嘆させ続けたギタリストとしても、
家庭を築き四人の子供を育てた父親としても、
祖先伝来の文化の源を追う音楽家としても、
いつの日も慈しみと謙虚さをもった一人の人間として、
地に足をつけて歩き続けた。
そのゆるぎない創造を続けた深い愛と探求の勇姿は
我々になお一層の勇気を与える。
その精神がこの先も護られんことを。

生きながらにして伝説といわれた山下和仁。101枚のアルバムを発表する広大なレパートリーを有し、世界各国からギター界の雄として生涯招待され続けた。しかし演奏家としての名声にとどまらず、世界各地で古楽および民族音楽の調査・研究をかさね、かつ新曲委嘱初演にも意欲的な、真の「音楽家」であった。

「旅も、家族でできるだけ一か所に長くとどまることにしているんです。世界中どこに行っても必ず素敵な面白い人たちがいますし、その土地の空間や時間と深くかかわった素晴らしい音楽があります。どこへいっても家族一緒で音楽を創り、アンサンブルを奏でています」(雑誌「音楽の友」2010年本人インタビューより)。飽くなき探求を続けたその歩みの1つに家庭内音楽の研究がある。2004年のローマ国際ギターフェスティバル以降、国内、韓国、イタリア、ベトナム、ポルトガル、スペイン、アメリカ、シンガポール、チェコ、ハンガリーなどで、自身が招聘された幾多の機会に、家族との演奏も披露した。

TOPPANホールは、このアンサンブルの東京初公演のステージであり、山下和仁がその音響を絶賛した会場である。2人の娘それぞれと共演した「シェエラザード」、息子と共演した「プラテーロとわたし」、そして、共にこのアンサンブルとその楽曲を創りあげた藤家溪子による追悼作品ほか、思いをよせた楽曲が演奏される。3月25日、山下和仁の誕生日に4人の子供たちが十余年ぶりにステージで集い、哀悼の意を捧げる。

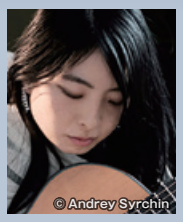
山下和仁 (ギター) Kazuhito Yamashita

1961年長崎市生まれ。8歳より父・山下亨にギターを学び、作曲家・小船幸次郎にも師事。16歳でラミレス、アレッサンドリア、パリの三大国際ギターコンクールをいずれも史上最年少で制した。自編による《展覧会の絵》《火の鳥》などで大きな反響を呼び、ウィーン楽友協会大ホール、リンカーンセンターほか欧州・北南米・アジア各地で演奏活動を展開。L.スラットキン、R.F.デ・ブルゴス、J.ゴールウェイ、L.コリエル、ゲリー・カー、東京クァルテットら世界的音楽家と共演し、国内外の作曲家から60以上の作品を献呈された。生涯幅広く音楽を研究し、春日大社やスクレ大聖堂、サクサイワマン、太陽神殿でも演奏。CD《黎明期の日本ギター曲集》で文化庁芸術祭大賞を受賞。2026年1月24日逝去。

kazuhitoyamashita.com

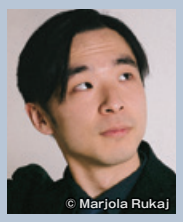
紅の梅とともに去ったあなたが、玄妙な精霊たちに囲まれて隠り世の音を編んでいることが……　山下和仁に寄せて

山下紅弓 (ギター) Koyumi Yamashita


© Andrey Syrchin

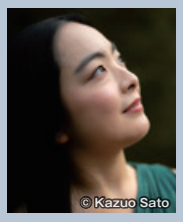
1993年生まれ。2003年、東京・浜離宮朝日ホールにて父・山下和仁とのギターデュオでデビュー。家族とともに国内外で演奏活動し、2010年にソロデビュー。2020年、ロシア・カザン国際ギターフェスティバルにてオーケストラと共演。父とのデュオアルバム『カランダール王子の物語』など4枚、ソロアルバム『エンデチャとオレムス』をリリース。演奏活動の傍ら、地球惑星科学分野で結晶学を専攻。熊本大学を経て九州大学大学院理学府修了。

山下光鶴 (ギター) Terukaku Yamashita


© Marjola Rukaj

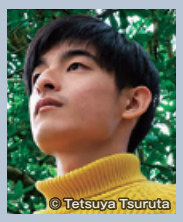
1994年生まれ。西洋のクラシック音楽、アジアの伝統音楽、現代音楽の作曲技法、さらに南米フォルクローレの影響を受けた独自の音楽世界を生み出す作曲家兼ギタリスト。特殊奏法を駆使した音、ハーモニー、リズムを変幻自在に操り、一本のギターで多彩な情緒をうたいあげる。音楽一家に生まれ幼少期から音楽に親しんだ後、18歳で渡独。C.ドメニコーニ氏に師事。ベルリン芸術大学でギターと作曲を専攻。ヨーロッパやアジア各地で活動。現在は長崎ギター音楽院院長を務める。

山下愛陽 (ギター) Kanahi Yamashita

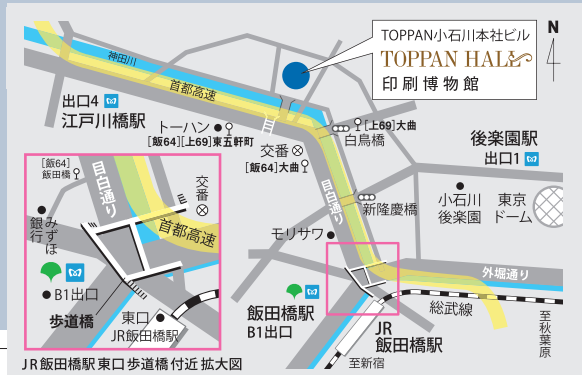

© Kazuo Sato

1997年生まれ。ギタリストの父・山下和仁、作曲家の母・藤家溪子のもとで学ぶ。2015年に渡独し、ベルリン芸術大学、ニュルンベルク音楽大学で研鑽を積み、2026年に国家演奏家資格課程を最高点で修了。現在はベルリンを拠点に国際的に活動。東京都交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団などと共演。2026年に第35回出光音楽賞を受賞。ソロアルバム『C.ドメニコーニ ギター作品集』、『夜想の旅』をリリース。

山下波父 (朗読) Namifu Yamashita


© Tetsuya Tsuruta

2000年生まれ。幼少の頃より、山下和仁ファミリークインテットとして世界各地で公演。2016年には二十年に一度の奈良・春日大社の式年造替にて父らと演奏。自然への敬愛が深く、高校時代には、父とグアテマラなど中南米を歴訪。ノーベル賞作家、J.R.ヒメネスの「プラテーロとわたし」とも出会い、山下和仁のギターとの共演で朗読を担当。朗読の素質は自身の執筆活動とも深く結びついている。クインテットのアルバム『みんなのにわとりさん』に参加。大学院での昆虫学専攻を経て、現在は製紙会社に勤務。



JR飯田橋駅東口歩道橋付近 拡大図

交通のご案内

江戸川橋駅	東京メトロ有楽町線(4番出口)より徒歩約8分
飯田橋駅	JR総武線(東口)、東京メトロ有楽町線・東西線・南北線、都営大江戸線(B1出口)より徒歩約13分
後楽園駅	東京メトロ丸ノ内線・南北線(1番出口)より徒歩約10分
都営バス	[上69][飯64]「大曲」または「東五軒町」下車徒歩約3分

TOPPANホール　〒112-0005 東京都文京区水道1-3-3 Tel.03-5840-2200
www.toppanhall.com